

出火の原因を知り、 火災を起こさない。

私たちの身の回りには、出火の原因となるものがたくさんあります。
出火の原因を知り、身近な火種を取り除きましょう。

コンロ

火がついているコンロから
離れない。
コンロのまわりに燃えやすい
物を置かない。
着衣の引火にも注意する。

たばこ

寝たばこをしない。
火のついたたばこは放置しない。
吸い殻は水にぬらして捨てる。

他にも

仏壇のろうソクやアロマキャンドルの
不始末、ペットが電気コードをかじる
ことによる出火にも注意しましょう。

コンセント

たこ足配線をしない。
コンセントに埃をためない。
傷んだコードはすぐに修理・交換する。

放火・放火の疑い

家のまわりに燃えやすい物
を置かない。
ゴミは指定日の朝に出す。

火遊び

子供の手の届くところにマッチ
やライターを置かない。
子供だけを残して
外出などしない。

ストーブ

ストーブの近くに
燃えやすい物やスプレー缶
など置かない。

外出先で火災 にあったら

大勢の人が利用する建物の火災では、出入り口に人が殺到してパニック状態に陥ります。
外出先で火災にあった場合、あわてずに落ち着いて係員の誘導の指示に従い避難しましょう。

地下街では冷静に行動する

地下街では非常口は60mおきに設置されています。
非常口に人が殺到していたら、別の非常口から避難
しましょう。

停電になってもあわてない

停電で、万一非常照明が点灯しなくても、誘導灯は
点灯しています。
避難する時は、壁つたいに歩いて避難しましょう。

※誘導灯は、建物内が停電で真っ暗なときや煙が充満して視界
が悪いときに、非常口につながる経路へ導く道標の役割です。

エレベーター・エスカレーターで避難しない

火災による停電やパニックによる乗りすぎなどで、
エレベーターの停止やエスカレーターからの転落
の恐れがあります。

煙を吸い込まないようにする

姿勢を低くしてハンカチなどで、口と鼻をおおい、
呼吸をなるべく浅くして、できるだけ煙を吸わない
ように避難します。

火災で死亡する原因の6割が「逃げ遅れ」です。

住宅火災による死者は就寝時に多く、死亡する原因の6割が「逃げ遅れ」です。
火災を早期に発見するためにも設置義務のある、住宅用火災警報器を取り付けましょう。

煙式



寝室や階段室に設置
煙で火災をいち早く感知

熱式



台所に設置
空気中の熱を感知

大阪府では、寝室と階段に設置義務があり、
大阪市では、台所にも設置義務があります。
階段は、2階に寝室がある場合に階段天井
か壁に設置します。

火災で最も恐ろしいのは煙です。

火災では、炎が広がるよりも速く煙が広がるので、
人の視界を奪い、有害ガスを多く含む煙を吸い込む
と体が動かなくなります。

煙は、天井まで昇ったあと横に広がり、床に降りて
きますので、煙を吸わないようにするには、姿勢を
低くして避難することが大切です。

短い距離なら、息をとめて一気に走りぬけましょう。

